

## 認知症の人を地域で見守ろう！

認知症の人や高齢者が、住み慣れた自宅で住み続けるためには、見守る機器の使用や家族や親族の支援だけでなく、地域や近所の皆さんの協力や理解が必要です。

しかし、地域には、体や心の衰えにより近所付き合いが希薄となった「地域社会から遠のく高齢者」がいます。そこで、地域包括支援センターや地域づくりを支援する生活支援コーディネーターが、本人と周りの皆さんの思いや、支援できることを話し合う会を調整し、実施しています。



## 地域の方と個人への支援を話し合う会

### できる人が、できることをしよう

この会は、介護保険サービスや福祉サービスのほか、地域包括支援センターが協力いただきたいと考える人（親戚やご近所、友人など）に参加していただき、顔見知りになって支援の体制づくりを行うものです。これまでのお付き合いを基盤にした会であり、「毎日電気が付き、窓が開いていることを確認する」「時々声をかける（体調確認）」「買い物ついでに必要なものを買ってきてあげる」など、近所の皆さんに日常のちょっとした気遣いをしてもらうことで、本人の安心につながります。こうした一連の取り組みにより、住民相互の関係性の継続や、再びつなぐ支援をしています。

#### 本人や家族

- 気にかけて欲しいけど近所に言えない
- 近所に心配をかけているけど、本人の状況説明がしにくい



#### 近所の人

- 心配しているけど、「おせっかいかも」と思って言い出せない
- 「手助けが必要ならしよう」と思っている

本人と支援者をつなぎ合わせる手助けをしています！



### 支援にご協力ください

皆さんは、地域のことをどれくらい知っていますか？ぜひ、自分の住んでいる地域に目を向け、地域の現状を知り、地域に関心を持ってください。地域を良くするために、支援環境や生活環境について、地域で考えていきましょう！  
地域包括支援センターや生活支援コーディネーターから「地域の方と個人への支援を話し合う会」への出席依頼がありましたら、ぜひご協力ください。また、「心配な人がいる」「少しは協力できる」という人は、地域包括支援センターへご一報ください。



# 地域で見守る認知症高齢者

## ～私らしく暮らし続けるために～



牧之原市の高齢化率をご存じでしょうか。実は令和4年9月末現在、32.6%にもなっています。

年齢を重ねていくと、認知症になる可能性も高くなります。市では、認知症と診断されても今までのような生活を続けることができるよう、さまざまなサポート体制を整えています。

問い合わせ 長寿介護課 福田比呂子 ☎0076

## 認知症の人を見守る機器

### 徘徊者向けGPS発信器



【発信器】愛用品に付けます。発信器内蔵の靴もあります。

【見守りガイド】発信器が一定のエリア外に出るとアラームが鳴ります。

愛用の靴や杖、歩行器に発信器を取り付けて使用します。高齢者の居場所が地図上で確認できるほか、外出しようとした場合や一定のエリア外に出た場合に、アラームが鳴るものや、設定された携帯電話にメールで通知が届くものもあります。徘徊がみられる高齢者に対しては、初期導入時に市補助があります（助成限度額7,350円）。

### 徘徊感知器（センサーシート）



【受信器】

【センサーシート】シートの上を人が通過すると受信器が鳴ります。

ベッド上やベットサイドにセンサーシートを置くことで、利用者が起き上がった時や歩き出した時に、受信器が鳴ります。設定された携帯電話にメールで通知が届くものもあります。

### 徘徊感知器（センサー）



【感知器】よく出入りするドアと柱に付けます。

【発信器】感知器を取り付けたドアを開けるとブザーが鳴ります。

センサーを設置したドアを開けた場合やセンサー照射範囲を通った場合に、ブザーが鳴ります。設定された携帯電話にメールで通知が届くものもあります。

### 高齢者等早期発見SOSシステム



【みまもりシール】

認知症の人など、行方不明になる可能性がある人を事前登録します（長寿介護課で受付）。対象者の持ち物などに貼る「みまもりシール」を配付するほか、いざというときに警察と情報共有することで、早期発見につながります。

この他にも、さまざまな見守り機能を持つ機器があります。各種機器を組み合わせ、その人に合った方法で見守り体制を整え、住み慣れた自宅で住み続けられるようサポートしていきましょう。各種機器については、担当のケアマネジャーにご相談ください。